

青少年育成センターだより

第89号 2020.6.15

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

0835-23-3013

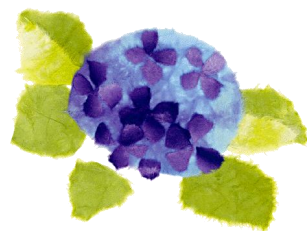


「紫陽花や帷子時（かたびらとき）の薄浅黄（うすあさぎ）」

（紫陽花が咲き、今年も帷子（夏用の衣装）を着る季節がやってきた。ちょうど紫陽花も帷子も同じ薄浅黄色をしている。）

「雨ばかりで、気が滅入る」という思いをもっておっておられる方もいらっしゃるのでしょうか。でもこの雨のおかげで、咲き誇る花々があります。あじさい、くちなし、はなあやめ……。他の季節とは少し変わった美しさをもっている花たちです。

松尾芭蕉



家庭でできる性教育

「青少年育成センターだより第63号」において、“家庭で道德教育を積極的に行いましょう”と、提案をしました。今号では、家庭における性教育について一緒に考えてみましょう。

みなさんの家庭で子どもから、「どうして、子どもは生まれるの」「子どもはどこから出てくるの」などと質問をされ、困った経験はありませんか。「先生に教えてもらいなさい」「そんなことはまだ知らなくていいの」などと、逃げられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。なかなかこのような質問に答えることって難しいですね。

私も、息子が小学校5年生の時に一緒にお風呂に入っていて、上記のようなことを聞かれました。おそらく学校で性教育の授業があったのでしょうか、我が子からの質問に戸惑ったことを覚えています。

性教育は、学校でも行われます。しかし、子どもからこのような質問があった場合は、できるだけお父さん、お母さんの言葉で子どもの疑問に答えてやりましょう。その時には子どもの年齢にあった答え方をすることが大切なのです。

例えば・・・

（子ども） 「子どもはどこから出てくるの」

（お母さん） 「お母さんのおなかの中から出てきたのよ。あなたが出てくる準備ができたら、出てくるお腹の中の道が広くなり、その道を通して出てきたのよ」

（子ども） 「そうなの、痛そうだなあ」

（お母さん） 「そうね。痛かったけれど、あなたに会えたことのほうがずっと嬉しかったよ。生まれてきてくれてありがとうね・・・」

小学校の低学年であれば、このような答え方でいいのではないのでしょうか。「コウノトリが連れて来たのよ」ではいけないのです。少し成長すれば、精子と卵子の話をして分かってくれるでしょう。

「性について話をするのは難しい、抵抗がある」と思ってはいけません。子どもがそのような質問をしてきたときには、可能な限り答えてやるのが大切です。家庭の性教育では、生理学的なことや出産の仕組みとかについて詳しく教える必要はないのです。大切なことは、「生命の尊厳」や「愛の美しさ、喜び」など、精神的なことについて教えてやることです。家庭で行う道德教育も大切なことですが性教育も同じように大切なことです。

家庭においての一番の性教育は、お父さんとお母さんの仲が良い姿を見せること、そして、お父さん、お母さんがお互いを大切にしている姿を見せることなのです。

（文責＝青少年育成センター指導員 藤村）